

「ディスカバー農山漁村の宝」(第11回選定)選定地区一覧

むら

九州・沖縄
【教育機関との連携、食育・教育、学生・若者の活躍】
No.26 福岡県 北九州市
NPO法人SDGs Spiral
【農業、復興、農福連携】
No.27 熊本県 大津町
株式会社なかせ農園
【6次産業化、企業との連携、学生・若者の活躍】
No.28 大分県 豊後大野市
株式会社豊後大野クラスター
【農業、環境保全、教育機関との連携】
No.29 沖縄県 糸満市
糸満市地域農地・水・環境保全 管理協定運営委員会
【農業、6次産業化、食育・教育】
No.30 沖縄県 読谷村
島袋 みさえ

中国
【伝統の継承、教育機関との連携、食育・教育】
No.19 鳥取県 琴浦町
出上農地・水保全活動組織
【水産業、雇用、地域資源の活用・雇用の増大】
No.20 島根県 西ノ島町
中上 光
【荒廃農地対策、地域のスマート化、中山間地域のデジタル化】
No.21 岡山県 真庭市
吉縁起村協議会
【地産地消、移住・定住、食育・教育】
No.22 山口県 岩国市
株式会社神東ファーム

四国
【農業、企業との連携、学生・若者の活躍】
No.23 愛媛県 松山市
きりぬき
【農業、地産地消、学生・若者の活躍】
No.24 愛媛県 宇和島市
愛媛県立北宇和高等学校三間分校 地域情報ビジネス部
【水産業、6次産業化、食育・教育】
No.25 高知県 中土佐町
大正町市場協同組合

近畿
【地産地消、伝統の継承、食育・教育】
No.17 滋賀県 守山市
もりやま食のまちづくりプロジェクト
【農業、6次産業化、伝統の継承】
No.18 奈良県 宇陀市
宇陀市古民家活用地域活性化協議会



北陸
【農業、復興、多様な分野との連携】
No.11 石川県 七尾市
小澤 善昭
【農業、多様な分野との連携、その他】
No.12 福井県 越前町
MISAKI CREATORS
【スマート農林水作業、農福連携、関係人口の創出】
No.13 福井県 あわら市
有限会社あわら農楽ファーム

東海
【農泊、農村文化体験、農村環境・景観保全】
No.14 岐阜県 八百津町
80%山のまちを元気にする協議会
【荒廃農地対策、食育・教育、関係人口の創出】
No.15 愛知県 岡崎市
NPO法人おかざき農遊会
【都市農業、地産地消、荒廃農地対策】
No.16 愛知県 大口町
服部農園有限会社

北海道
【農業、林業、地産地消】
No.01 北海道 北見市
株式会社エース・グリーン
【水産業、環境保全、水産畜産連携】
No.02 北海道 積丹町
北海道積丹町におけるブルーカーボン 創出プロジェクト協議会
【伝統の継承、食育・教育、 学生・若者の活躍】
No.03 北海道 幌加内町
北海道幌加内高等学校

東北
【農業、企業との連携、 関係人口の創出】
No.04 青森県 弘前市
ひろさき援農プロジェクト
【農業、農福連携、食料安全保障強化】
No.05 秋田県 横手市
Plz株式会社
【農業、教育機関との連携、農村環境・景観保全】
No.06 秋田県 横手市
秋田県南旭川水系土地改良区
【輸出、地産地消、伝統の継承】
No.07 山形県 西川町
有限会社玉谷製麺所

関東
【環境保全、学生・若者の活躍、 関係人口の創出】
No.08 福島県 只見町
合同会社ねっか

関東
【環境保全、学生・若者の活躍、 関係人口の創出】
No.09 群馬県 沼田市・片品村
群馬県立尾瀬高等学校
【農業、6次産業化、雇用】
No.10 山梨県 身延町
あけぼの農園株式会社

■:「ビジネス・イノベーション部門」
■:「コミュニティ・地産地消部門」
■:「個人部門」

計:30地区





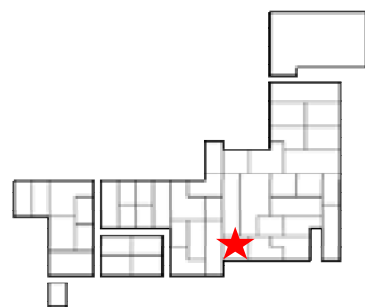
— 荒地は人の心を荒廃させる めざせ！菜園都市 —

コミュニティ・地産地消部門

荒廃農地対策

食育・教育

関係人口の創出



愛知県 岡崎市

【概要】

- 増え続ける耕作放棄地の解消が課題。
- 「楽しく、愉しく」をモットーに、世の中のために良いことをしているという満足感が会員のボランティア活動を支えている。NPO法人化により人員、組織を強化するとともに、自力による耕作放棄地の解消に止まらず、幅広い市民活動にするため「菜園都市おかざき」を掲げ、野菜づくりの楽しさを伝える活動を強化。

【成果】

- 令和6年現在、耕作放棄地再生を中心に耕作農地面積を約14haまで拡大、これらの農地で栽培する生鮮野菜を定期開催する朝市や産直などを通じ安価に市民に提供を行っており、令和5年度は967万円の売上。朝市を行うことによって、さらに多くの野菜を作る＝耕作農地の拡大と良い流れとなっている。
- 平成27年から市民農園の拡充に力を入れ、市内に5カ所で103区画の市民農園を運営するなど各種事業の収益拡大により、平成28年以降は補助金に依存しない財政自立化を達成。



苗の植え付け共同作業



定期的に開かれる朝市での販売風景



サツマイモの収穫体験